

平成18年度予算の考え方

～ かわさき再生テイクオフ予算 ～

平成18年度予算は、「第2次行財政改革プラン」及び「新総合計画・川崎再生フロンティアプラン」の2か年目の予算として、次の点を基本に編成を行いました。

行財政改革による取組みを確実に予算に反映させました。

最優先課題である「行政体制の再整備」にあっては、「3年間で約1,000人の削減」の目標達成に向け、事務事業の徹底的な見直し等により職員数の削減を図るとともに、公の施設について指定管理者制度を導入するなど、行財政改革を強力に押し進めてまいります。

また、行財政改革による効果を小児医療費助成事業の拡充など市民サービスに還元するとともに、将来の市債償還のため減債基金残高の確保を図るなど健全な財政構造の構築に取り組みます。

「新総合計画・川崎再生フロンティアプラン」に掲げる計画事業の一層の実現を図ります。

計画に基づき、「安全・安心な地域生活環境の整備」、「総合的な子ども支援」などの取組みを着実に推進するとともに、新たに、地域の特性を踏まえた各区の防災計画の策定、福祉産業等の新たな産業の振興、地域文化芸術活動の場としてアートセンターの整備、藤子・F・不二雄アートワークスの整備に向けた調査検討などにも取り組んでまいります。

また、川崎病院に救命救急センターを設置するとともに、アメリカンフットボールワールドカップの開催を支援するなど、取組みを推進してまいります。

自治基本条例に基づく市民本位のまちづくりに向けた取組みを推進します。

市政に市民が主体的にかかわるしくみとして、区民会議の本格実施及び住民投票制度の創設に向けた検討を行い、地域の課題を解決するための環境を整備するとともに、利便性の高い窓口づくりや市民満足度の高い行政サービスを提供するための取組みを推進します。

平成18年度予算は、これらの取組みにより川崎再生の姿を具体化するという意味を含め、「かわさき再生テイクオフ予算」とし、活力とうるおいのある「元気都市かわさき」の実現に努めてまいります。

平成18年2月

川崎市長 阿部 孝夫